
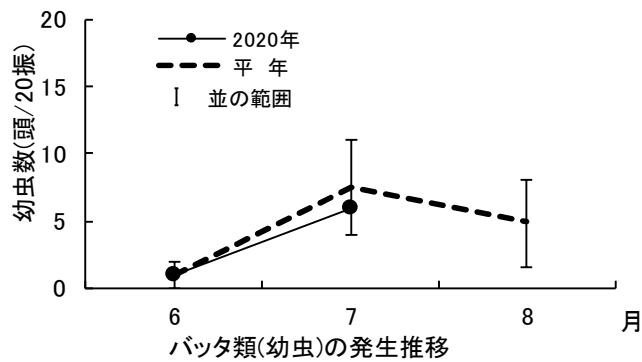


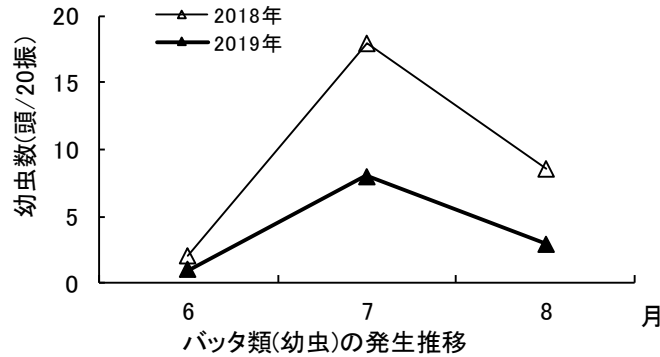
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・発生ほ場率：75.0% (平年値：81.6%)
- ・発生種：台湾ツチイナゴ、チュウゴクヒゲナガイナゴ
- ・発生種：病害虫防除員報告：多発生 (与那国島)

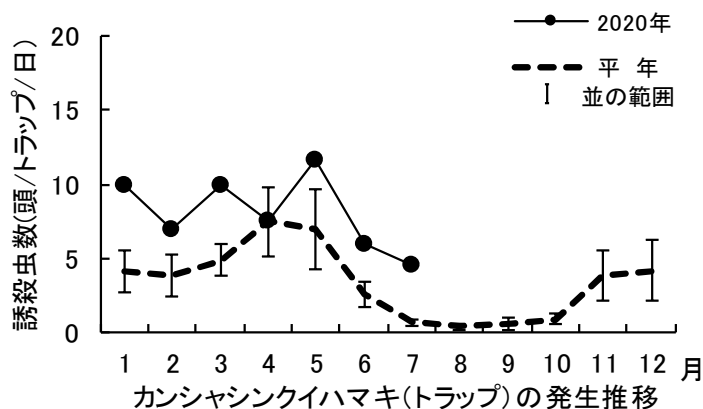
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

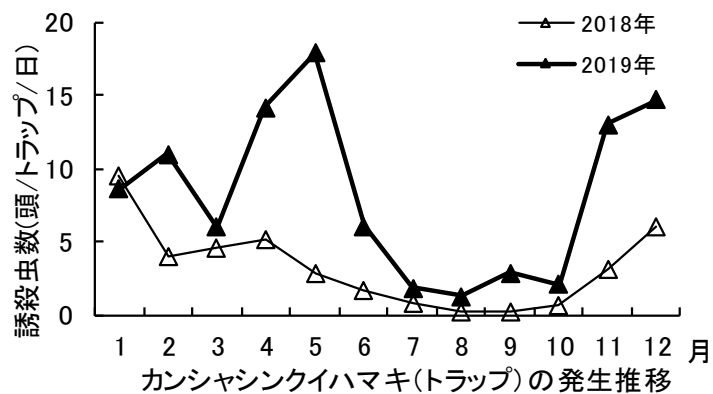
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報	7 月からの増減傾向	—	
		8 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



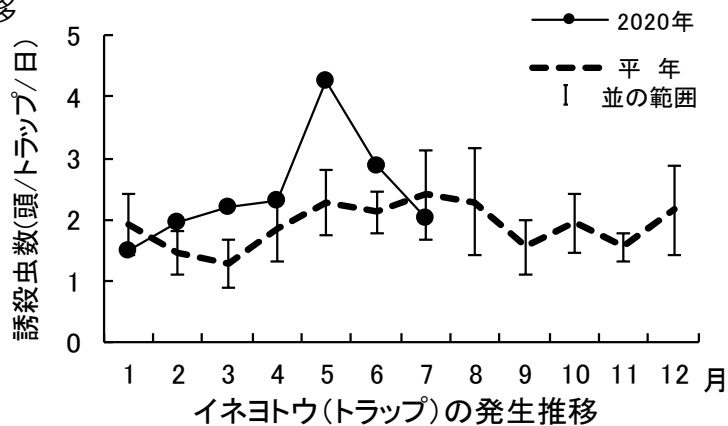
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

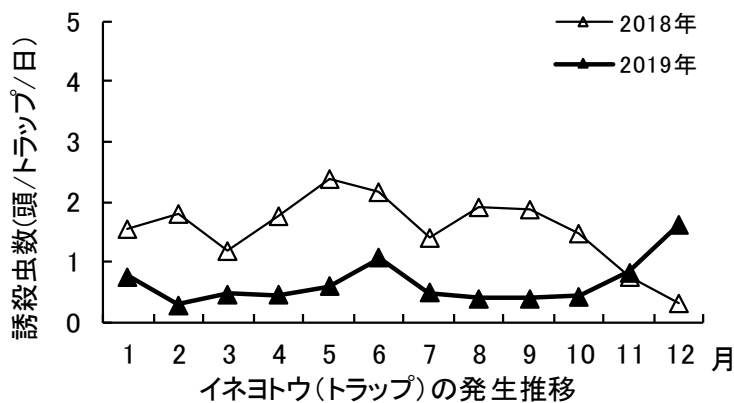
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



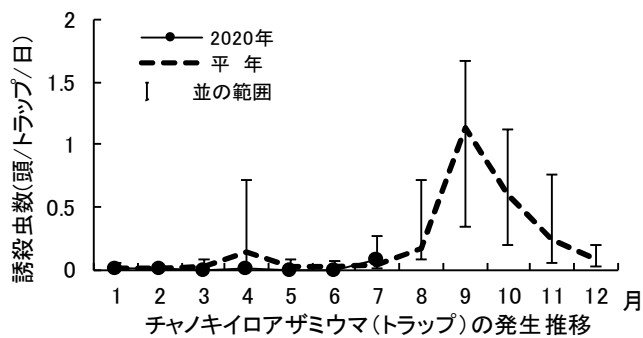
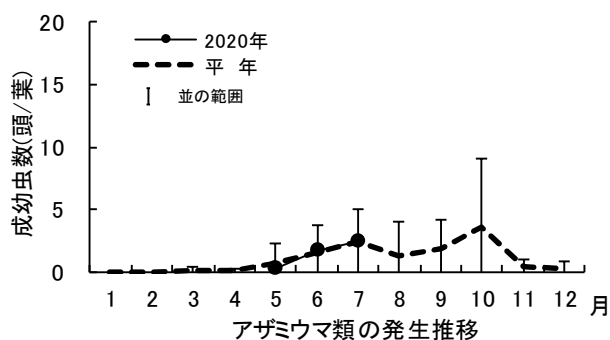
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

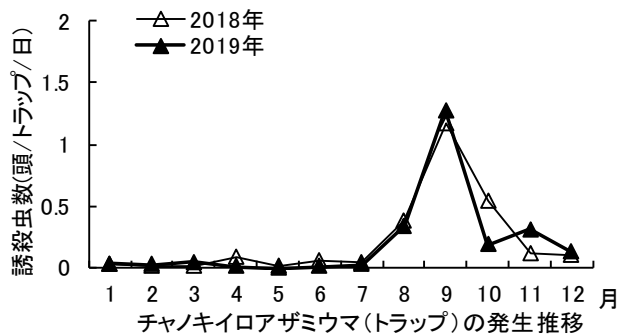
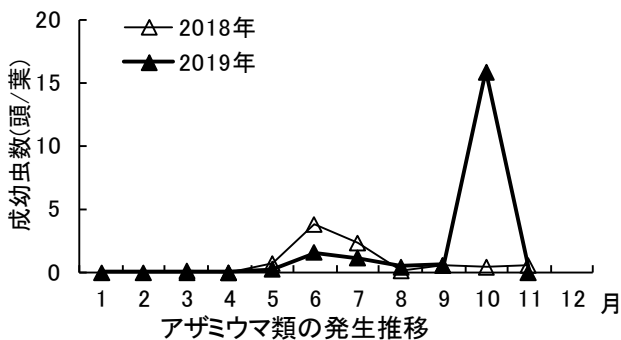
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：100% (平年値：73.5%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

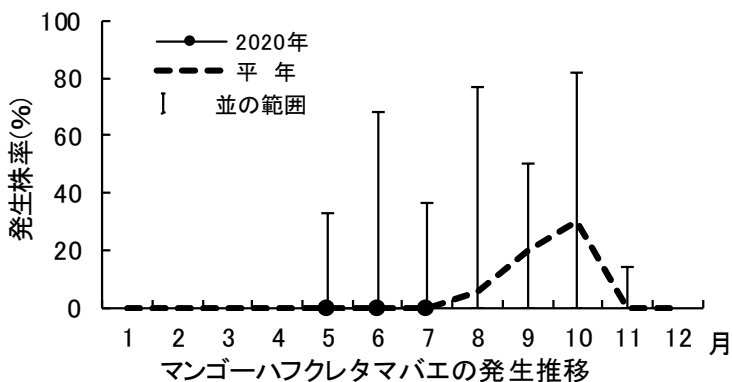


ナガエコミカンソウ

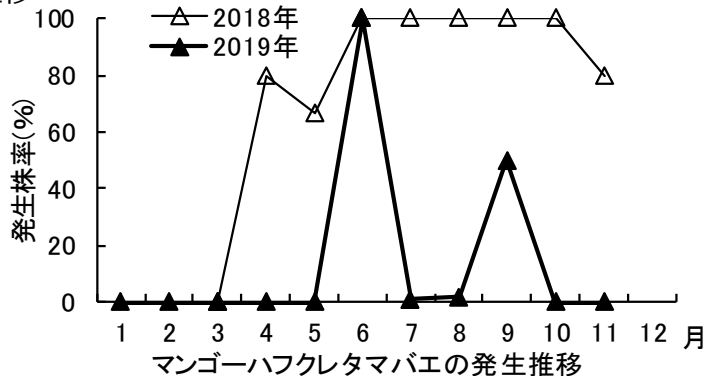
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 被害新梢率：0% (平年値：78.6%)
- ・ 発生施設率：0% (平年値：45.5%)

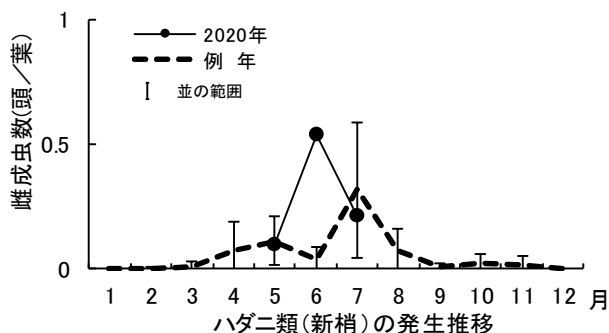
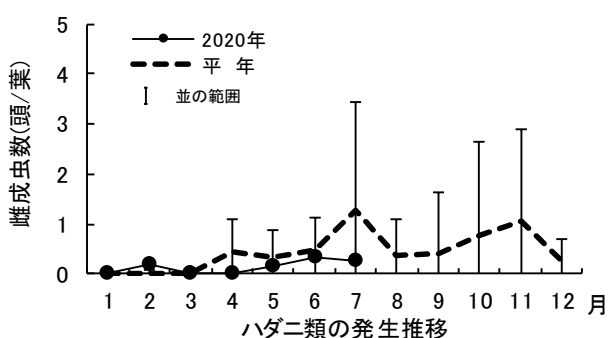
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 翌不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

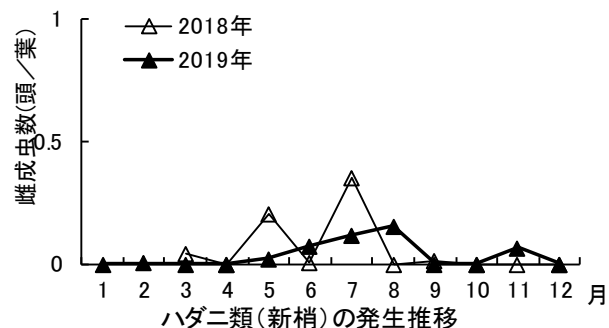
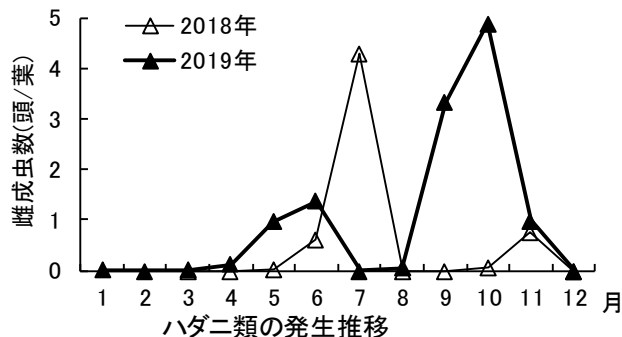
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：40.0% (平年値：31.8%)

防除のポイント

- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

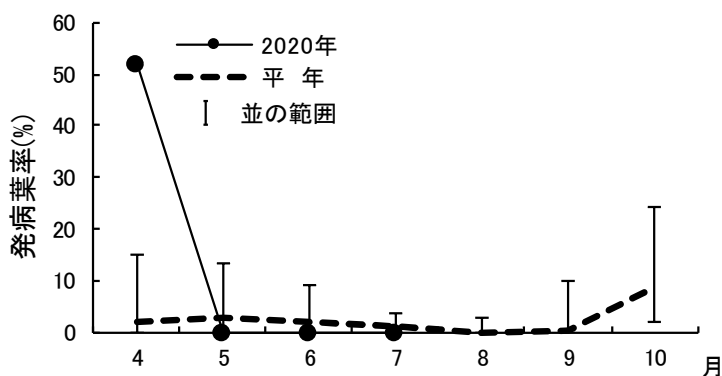


ハダニの寄生による葉のかすれ症

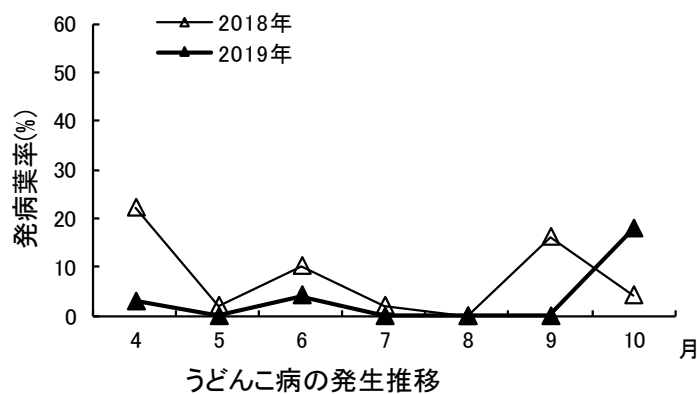
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
		8 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 65.1%)

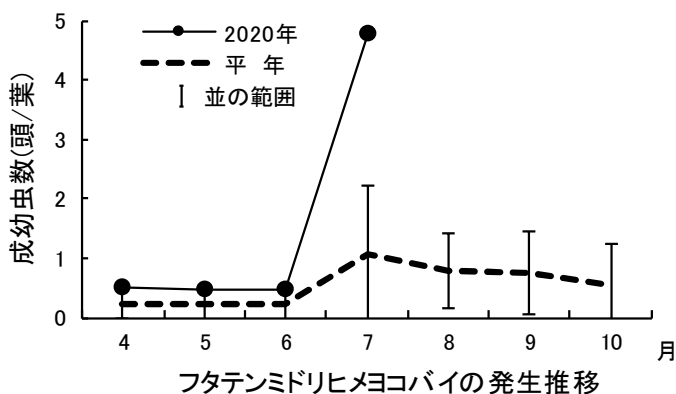
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

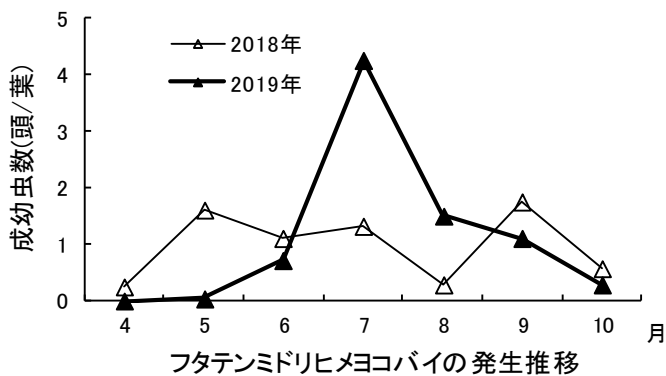
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	多	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：100% (平年値：65.1%)

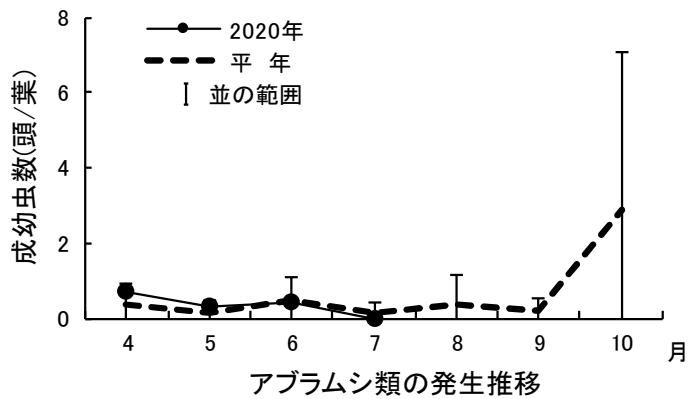
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

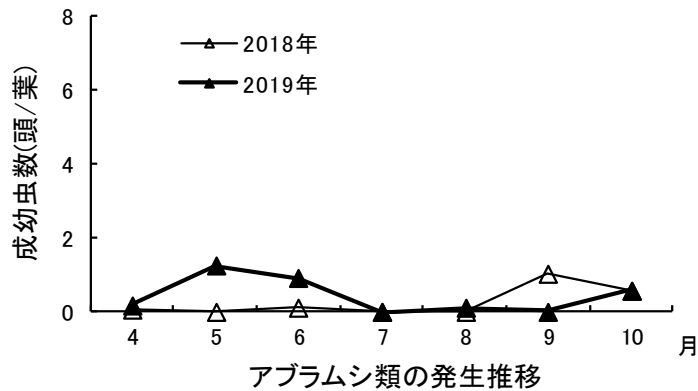
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：0% (平年値：21.4%)

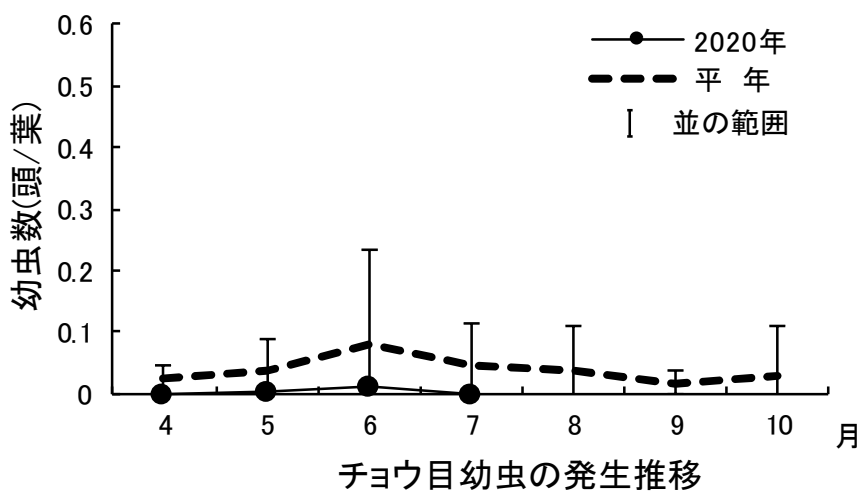
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	八重山群島	
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)				
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並			
予報	7 月からの増減傾向	→			
		8 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

今期と平年の推移



発生ほ場率：0% (平年値：28.6%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

